

平成27年度第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	協議会名	平成27年度第1回安曇野市博物館協議会
2	日 時	平成27年5月21日(木) 午後1時30分から
3	会 場	安曇野市役所 共用会議室301
4	出席者	笹本会長、滝沢副会長、小野委員、小林(み)委員、平倉委員、細野委員
5	市側出席者	那須野文化課長、降旗豊科近代美術館館長兼穂高陶芸会館館長、大月田淵行男記念館館長兼飯沼飛行士記念館館長、堀田淵行男記念館副館長、百瀬豊科郷土博物館館長、逸見穂高郷土資料館担当、宮下高橋節郎記念美術館館長、清水貞享義民記念館館長、桜井貞享義民記念館担当、内川臼井吉見文学館館長、西山博物館係長、小倉博物館係、山田文化振興係長、丸山文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成 27年 6月 3日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (那須野文化課長)
- 2 あいさつ (笹本会長)
- 3 報告・協議
  - (1) 平成26年度各館事業報告
  - (2) その他
- 4 その他
- 5 閉 会 (那須野文化課長)

○協議概要

(1) 平成26年度各館事業報告

各博物館・美術館長(資料内容説明)

会 長・・・今日も皆様には、どうしたら市民にとって博物館・美術館が身近なものになり、どうしたら地域を次の段階まで引っ張り上げていけるかにつながるような建設的な発言をお願いします。

委 員・・・ただ作品を見るだけではだめで、体験をすることも入れていかなければというご意見が前回会議に続き、今回もありました。貞享義民記念館では古文書学習講座が、郷土博物館ではこたつを囲んだ学習会が行われました。昨今、講座に対する需要が高まっています。講座の参加者層についての分析は行われているのでしょうか。講座へ参加する人が、その後入館者へ結びつくのかどうかという点です。

会 長・・・先のご指摘は、参加人数のみではなく、今後の入館者へつなげるための取り組みという意味でのご発言だったように思います。博物館・美術館は、公民館活動とは違う側面を持っていて、展示で勝負すべきです。本来は、展示をきちんとやることのほうが大事です。人を集める際に、体験と銘打った講座にあまり頼るべきではないだろうと思います。どういう層を人寄せするかという戦略と、そのために一体どういうことをすればいいかというような視点で、今一度分析が必要になってくると思います。

委 員・・・数年来、市内の博物館・美術館は内容的に向上し、興味のもてるような施設になってきていると思います。施設を一巡してきましたので、気がついたことを言います。豊科郷土博物館の壁面を利用した展示方法についてですが、展示資料の両端や中心を揃えるように意識すると、美しく見せることができると思います。この点については、田淵行男記念館での展示が参考になると思います。また、トイレについてですが、よくなり非常にいいと思いました。豊科近代美術館では、宮 芳平や高田 博厚の作品を展示しています。安曇野市が作品を所蔵するいきさつについての説明がありません。先ほど豊科近代美術館館長から、地元出身作家の展覧会に、市内から多くの入場者があったとご報告がありました。市民にとっては、展示作品の経緯を知ることが、展示

作品に対し興味をもつきっかけとなるのではないのでしょうか。美術館の周囲の景観は、美術館の魅力に関わります。安曇野高橋節郎記念美術館の西側にある電柱を撤去、地中化してほしいと思います。長野市にある北野美術館から山を眺めると、近くの民家は目隠しされ、遠くの山が借景として生きています。貞享義民記念館は、人権問題をテーマとする全国的に貴重な博物館です。人権への関心を深めるために、2斗5升ひきの米と3升ひきの米を収穫するためには、どの位の水田の面積が必要かを現地体験できるような講座を開いてみてはどうでしょうか。講座を通じて、過酷な年貢に農民が苦しむのを見るにしのびず、身を挺して農民を救ったということ、米の収穫量から体験するという事です。臼井吉見文学館について、安曇野の人々を語る会の発足後、参加者も多いようです。参加者の裾野を若年層まで広げる工夫が必要になるかと思えます。穂高陶芸会館について、展示してある信斎焼・洗馬焼・入道焼の説明は、パンフレット中にあっても、展示にはありません。安曇野市にこのような焼き物があるいきさつを提示することで、市民は興味をもつと思うのでお願いしたいです。また、展示室の畳敷きを利用して、秋にお茶会が開かれています。陶芸会館では、抹茶茶碗を作陶した人がいると聞きました。秋に限らず、地域の茶道家の協力を仰ぎながら、年に3～4回お茶会を開いたらどうでしょうか。茶碗の制作と併せたお茶会というのもよいのではないのでしょうか。飯沼飛行士記念館について、展示の新聞が古くなったため、部分的に新しくコピーしたものが展示されています。それに合わせて、新聞の説明板も新しく作成したらよいと思います。それから、館内説明をDVDの静止画で作れば、もっと興味が沸いて非常に楽しくなると思います。穂高郷土資料館について、写真展示の退色が目につきます。ネガがあれば、今のうちにデジタル化を進め、将来のために保存して欲しいと思います。農機具の展示として、実物の展示や写真による展示以外に、動画による展示は効果があると思います。昔の再現場面を構成して、農機具の用いられる様子を映像に収めるということですが、すぐに実現することではないにしても参考にしてほしいです。これから十数年経てば、経験者がいなくなってしまうと思います。アンケートについてですが、項目を設定する際は詳細にし、今後のPR活動に活かすようにしてほしいです。例えば、長野県内からの入館者の場合は、北信、中信、南信というくらいの設定が必要ではないだろうかと思えます。豊科近代美術館では、感想について「大変よかった」「まずまずよかった」「あまりよくなかった」の3つだけです。貞享義民記念館は細かく分けてあって、例えばシアター見学の項目には「満足」「やや満足」「普通」「不満」そして常設展や職員の展示解説についての項目と細かく分かれています。アンケートについては、博物館・美術館同士参考になるところは互いに参考にしてほしいと思います。少し詳しくデータを調べることは、今後どのようにPRしたらよいのかにつながります。安曇野検定について、合格すると3年間有効の施設へ無料で入館できるパスポートがもらえます。試験問題中に、実際に博物館・美術館へ足を運ばなければ解けないような問題を出してほしいと思います。そうすると受験者が来館し、それが博物館・美術館との接点になるのではないのでしょうか。また、他館との連携によっては利用者が増えるということは事実ですので、更に進めて欲しいです。

会長・・博物館・美術館にとっては、まずは見てもらうことが大前提です。きれいに展示する、見る側の印象をどういうふうにするかということは大事です。説明について、何を説明するかについては、よく考えていただきたいです。説明文は、なかなか読まれないということも含み置いてほしいです。先ほどトイレの話がありましたが、トイレがよくなると人は集まります。建物の何を大事にすべきかについては、順序立ててやっていきたいと思えます。展示の切り口について、忘れていた視点、アイデアによっては、まったく違う展示が可能です。私は貞享義民騒動について、単にかわいそうだというのとは違う意識を持っています。実際は、本当に収奪されて動きのとれないところは、一揆は起きません。一揆の起こせる文化や経済力があるところでは、まったく異なった視点もあり得ます。展示の切り口については知恵を出し合い、次の段階に入っていきたいと思えます。

委員・・小・中学生を対象として、様々なことをやっていただいています。まず、先生によく知ってもらうことが大事だと思います。先生に授業の端々で言及してもらうことで、子どもは興味をもつようになると思います。入館料無料化について、収入がどれくらい増えるのか、減るのかわからないのですが、高校生にまで対象を広げられないでし

ようか。今まで有料だからという理由で入らなかった高校生が来館すると思います。小・中学生は面白かったという感想をもつくらいなのに対して、高校生くらいになると鑑賞を通して、一步踏み込んだ感想をもつことが可能になります。そういった人を来館者の対象として捉えていくのはどうでしょうか。豊科郷土博物館のこたつを囲んだ講座では、暖房面での配慮があったのですが、それにしても特別寒い日だったのか、心底冷えました。どこへ行ってもちょっと寒かったというのは何か所かあります。温まるものの提供はどうかと思います。PR活動について、例えば田淵行男記念館だと、山や写真に興味をもつ人は全国区でいるので、地方紙のみならず全国的にPRできたらいいと思います。豊科近代美術館ですが、常設展の順路で迷うことがあります。ここからは立ち入り禁止というのが迷います。

会 長・・図書館はタダで入れるので人がいます。高校生まで入館料免除にしてもらえたら、これは安曇野市が生徒の情感を育てているという教育面でのPRになります。先ほど施設が寒かったというご発言がありましたが、全ての博物館に共通して、ちょっとした心遣いで違いがうまれるということは言えると思います。

委 員・・市制10周年や新庁舎の開庁を記念して、小・中学校を含めた市内施設に散在している所蔵品を1箇所に集め、こういうものをもってると紹介するような展覧会をぜひお願いします。穂高神社に、高橋 節郎氏の作品がありましたので、それも取り込んでみたらいいのではと思います。

会 長・・信州大学のお宝を冊子にまとめました。大学のどこへ行ってもいっぱいものがあるのだけれど、誰も興味を示していませんでした。その中には、浅井 冽の掛け軸や山下 清の作品もありました。まず誰かが見てやらないとまずいだらうと思います。穂高神社の所蔵品については、公共施設ではないので、やれる部分とやれない部分あると思います。市庁舎等でもっているものを歩いて見てみると、結構いいものがあります。教育委員会全体としての企画でやるのかは、考えなければいけません、機会があったらやってほしいと思います。『安曇野風土記』（書籍）で将来的に、安曇野市の美術作品をまとめた方がいいと思います。事務局で、下地としてデジタル化をし、その後まとめられるようにしたいと思います。

委 員・・少し大きな話になります。安曇野市としてどのような市民を輩出したいのか、どのような子どもを育てたいのか、文化を大切にするとか、文化に深い興味をもつとか踏み込んだ事柄を打ち出せばと思います。学校が現在抱えている問題としては不登校、特別支援教育の問題があります。これは県や安曇野市の課題でもあります。このような問題がある限り、美術や歴史、様々な芸術品に目を向けるようにはなりにくいです。子どものみならず保護者もゲーム、テレビ、携帯端末を楽しむ世代にあって、美術館・博物館に目を向けさせることは難しくなっています。また、経済的に余裕のない家庭が増えてきている中で、入館料をもう少し値下げされたいかがかかと思ひます。美術館・博物館で、子どもたちの作品を展示するようにすると、子どもの作品を見に親が来館します。子どもの親の世代である30、40代の層を美術館・博物館に呼び込む切り口を考えてほしいと思います。今回の豊科近代美術館の藤井千秋展ですが、どのくらい若い人が取り込めるのか、注目したいと思います。若い人が興味のあることと、どう臼井吉見、貞享義民騒動、人権が結びつくのか、その切り口をそれぞれ考えていただいたらいいのかと思います。学校ミュージアムについて、過去3年間うまく運営されています。先日、新学期の始まった5月の段階で、今年度の開催校について話し合われました。3月には学校の年間行事が決定するので、もっと前の段階で話し合うようにしてほしいと思います。

会 長・・安曇野市が将来どのようになっていくか、そのためには子どもや親をどういうふうにしていきたいのかという理念をきちんと持つということです。みんなでここでも少し話し合っていくようにしたいと思います。一方で、私たちは子ども、子どもとあまり言い過ぎた部分もあるのではないのでしょうか。教育というものも手を掛けすぎるとよくないのではないかという話が出てきました。博物館が誘導しなければいけないことはいくらかあります。今までの既成事実そのまま私たちが寄りかかるだけではなく、博物館の理念からどういう市民を育てていくのか、その中で展示はどういう役割をもっているということをきちんと考えていかなければいけないという大変重要な指摘だったと思います。安曇野市の文化といったときの文化が一体何か、いつも気になります。博物館・美術館があることが文化なのではなく、日常生活に含まれるどれもが文化です。その意味で、上澄みだけでないような展示を含めて博物館・美術館を考えていきたいと思っ

います。

(2)その他

事務局・・・次回の博物館協議会について、10月頃を予定している。予算編成を前に、平成28年度の事業に向けてご意見を頂戴したいと思っているので、よろしくお願いします。

以上